

令和4年度・5年度
鹿児島県租税教育研究委嘱校

租税教育の実際



枕崎市立枕崎中学校

目 次

I はじめに

- 1 枕崎市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 校区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 3 学校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

II 研究の概要

- 1 研究主題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2 主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 研究の仮説・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 4 研究の内容及び組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 5 租税教育の全体計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 6 租税教育の年間計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

III 研究の実際

- 1 租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (1) 令和4年度租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
 - (2) 令和5年度租税教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 2 財政教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (1) 令和4年度財政教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - (2) 令和5年度財政教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 3 社会科での取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - (1) 税に関する授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
 - (2) 税に関する作文・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 4 道徳科における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 5 総合的な学習の時間における取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
 - (1) 食育支援事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
 - (2) 枕中未来塾・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
 - (3) 職場体験学習・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
 - (4) 学習発表会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
- 6 税の書籍コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

IV 研究の成果と課題

- 1 税に関するアンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26
- 2 アンケート結果の考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
- 3 研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
- 4 今後の課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

V おわりに

I はじめに

1 枕崎市の概要

令和元年に公募で選ばれた右のデザインマンホール蓋は、「立神岩」と「鯉みこし」が描かれている。枕崎市は薩摩半島の西南端に位置しており、東シナ海に浮かぶ標高 42m の「立神岩」は、まちのシンボルとして市民に親しまれている。本市は鯉の町であり、伝統技術で製造される鯉節は生産量日本一を誇り、「鯉みこし」は航海安全と豊漁、地場産業の振興を祈念して毎年 8 月上旬に開催される本市最大のイベント「さつま黒潮『きばらん海』枕崎港まつり」で担がれる。祭りには九州最大級の三尺玉花火が打ち上がる花火大会などもあり、市内外から大勢の人で賑わっている。



地形は、三方を山に囲まれており、南部に東シナ海を臨み鯉の水揚げが全国有数規模を誇る枕崎漁港があり、市街地が広がる花渡川河口付近には平野が開けている。北部は山林、西部は野間半島が続く台地であり、同じく東部も南薩台地と呼ばれる台地が広がっている。台地の地質は火山灰層であり畑作地帯となっている。（枕崎市のHPより）

国勢調査の資料から作成した本市の統計資料を見ると、地区の人口は近年減少傾向にあり、令和 2 年度 10 月で約 2 万人である。また、年齢階層別人口の推移を見ると、年少人口（0～14 歳）が約 2 千人と年々減少し、生産年齢人口（14～65 歳未満）も年々減少し、令和 2 年度には 1 万人を割っている。それらとは逆に、高齢人口（65 歳以上）は年々増加し、8 千人弱で総人口に占める割合は 40.9% と高くなっている。

2 校区の概要

本校区は、枕崎市の中央部を流れる花渡川の河口から東側と尻無川の流域を中心に位置している。本校区内には、行政機関の市役所、市立図書館や市文化資料センター（南浜館）等の文化機関、市民病院等の医療機関が集中している。本市には小学校が 4 校、中学校が 4 校あり、校区はそれぞれ 1 小 1 中で構成されている。枕崎中学校の校区は其中で、1 番中学生の人数が多い。

3 学校の概要

本校は、昭和 22 年に枕崎小学校の校舎の一部を共有して創立された。平成 6 年度には、立神中学校と学校分離、本館解体をして、現在に至っている。その当時約 810 人の生徒が、本校 530 人、立神中約 280 人に分かれて再生し、令和 5 年度現在 8 学級、195 人の在籍である。

「克己・友愛・創造」を校訓とし、「主体的に考え行動する力を備えた人間性豊かで心身ともにたくましい生徒の育成」を教育目標に掲げ、「気づき、考え、自ら行動する枕中生」

をキャッチフレーズに、全校職員が安全で安心してともに学び合える学校となるように取り組んでいる。

生徒は総じて明るく元気で素直である。生徒会活動が盛んで、朝の挨拶運動や授業開始1分前着席・チャイムで黙想、掃除時間の無言清掃、体育館への無言入館などに主体的に取り組んでいる。また、部活動では、文化系、体育系を合わせた入部率は54.9%と各部の人数が減っている中でも、県大会等で好成績を残して九州大会に出場したり、スポーツのクラブに所属している生徒で全国大会に出場したりするなど、盛んに行われている。



【挨拶運動】



【奉仕作業】



【部活動関係】



Ⅱ 研究の概要

1 研究主題

租税教育を通して、税に関心を持ち、社会の一員として税の意義を主体的に考え、地域社会に貢献する意欲と態度を育成する。

2 主題設定の理由

自分が生活する家庭や学校、地域社会の一員として必要なことに気付き、よりよい社会の実現のために何が大切なのかを考え、自ら行動する力を備えた生徒の育成は、本校の教育目標である。生徒にとっては、今の学びが将来の幸福とを感じる価値観や地域社会の実現につながっていることを、租税教育を通して実感し、さらに主体的に発信する活動につなげていきたい。

また、私たちに必要なものを生み出すために存在するのが社会であることに気付き、自分が困っていることと同時に、相手が困っていることを考え、そのためにできることについて意見を交流し合う過程で共感が生まれ、他者の痛みや喜びを想像する力を育みたい。

そして、自己が地域や世界とつながり、または現在から未来へとつながっていることを自覚することで、社会に貢献し、自己の将来に真摯に向き合うたくましい生徒の育成ができる考える。

以上から、生徒はさまざまな活動の中で、租税が民主主義の根幹であり、私たちの基本的人権が尊重される社会を支えている、ということを理解させたい。

3 研究の仮説

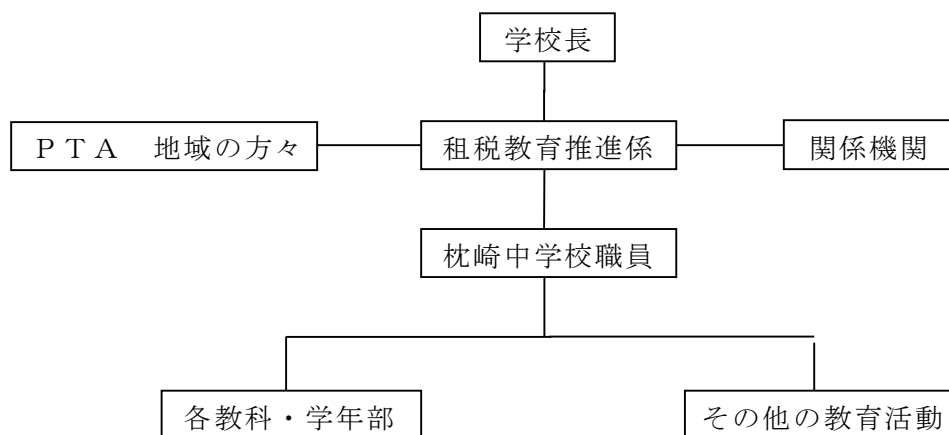
- (1) 租税の視点から身近な生活を振り返る租税教室や財政教室を通して、租税の意義を正しく理解し、租税や財政への関心が高まるのではないかな。
- (2) 租税教育の視点を取り入れた社会科や道徳科の授業を通して、租税の意義や社会の一員としての自覚が深まり、納税者や主権者としての資質が育成されるのではないかな。
- (3) 総合的な時間の学習に行う「枕中未来塾」や職場体験学習、学校行事の学習発表会までの準備や発表を通して、主体的に税の学習をし、税の必要性を理解する上で、社会に貢献しようとする意欲や態度が育成されるのではないかな。

4 研究の内容及び組織

(1) 研究内容

- ア 租税に関するアンケートの実施と分析
- イ 各教科の目標に沿った関連指導と協働学習
- ウ 道徳科で集団や社会との関わりについて自覚の高揚
- エ 総合的な学習の時間に社会の一員として主体的に取り組む活動

(2) 研究組織



5 租税教育の全体計画

学校教育目標			
主体的に考え行動する力を備えた人間性豊かで、心身ともにたくましい生徒の育成 ～ 気付き、考え、自ら行動する枕中生 ～			
鹿児島県租税教育の目標			
身近な生活と租税との関わりを生徒が自発的に調査し、研究発表、資料収集を協力して学習することにより、郷土についての理解を深め、主体的に行動できる生徒の育成を目指す。			
本校の租税教育研究主題			
租税教育を通して、税に関心を持ち、社会の一員として税の意義を主体的に考え、地域社会に貢献する意欲と態度を育成する。			
本校の租税教育の目標（付けたい資質や能力）			
① 租税，納税に関する正しい知識と理解 ② 社会に積極的に参画し，よりよい未来を築こうとする意欲と態度 ③ 学びの積み重ねを自分の将来に生かし，それを主体的に他者や社会に伝えていこうとする表現力			
各学年の租税教育の目標			
第1学年	第2学年	第3学年	
税について興味・関心を高め，自分たちの生活との関連を理解させる。	税について正しい知識と理解を広げ，自分たちが生きる社会について考える態度を育てる。	税に関する知識と情報を主体的に活用し，よりよい社会について考察したことを表現する態度を育てる。	
各教科	道徳科	特別活動	総合的な学習の時間
各教科の目標に沿った関連指導を行い，税に関する興味・関心を高める。	税に関する学習を通して，社会の一員として主体的に貢献しようとする態度を育成する。	地域で活躍する方から学ぶ進路学習を通して，社会や自己の課題を解決しようとする自主的，実践的な態度を育成する。	税に関する教室や実践活動，職場体験学習を通して，よりよく課題を解決し，自分たち社会や生き方を考える態度を育成する。

6 租税教育の年間計画

(1) 1年目の取組（令和4年度）

月	主な取組
4	○租税教育研究委嘱を受ける ○研究計画案について職員会議で説明
5	○税務署担当者と「租税教育の推進」について打ち合わせ ○租税教育推進係会（研究主題や計画の策定）
6	○税に関する生徒意識アンケート実施①
7	○租税教室の実施 ○税に関する夏休み課題の取組（作文：全学年対象）
8	○租税教育推進係会（税の作文等提出状況の把握）
9	○税に関する書籍コーナーの設置（図書室） ○税に関する授業実践（3年道徳科：「一票を投じることの意味」）
10	○財政教室の実施（3年生対象：来年度の予算を考えよう） ○税に関する社会科の授業実践（3年公民：暮らしと関わる行政）
11	○進路学習（全学年対象：「枕中未来塾」）
12	○税に関する社会科の授業実践（1年歴史：奈良時代の人々の暮らし）
1	○税に関する社会科の授業実践（2年歴史：明治維新の三大改革）
2	○次年度への取り組み確認と租税教育関係資料の収集・まとめ
3	○租税教育推進係会（初年度の反省，次年度に向けた研究課題のまとめ）

(2) 2年目の取組（令和5年度）

月	主な取組
4	○本年度の活動の確認（職員会議），○租税教育の準備・打ち合わせ
5	○租税教室の実施（1年生対象） ○食育支援事業学習（3年生対象），○職場体験学習（3年生対象）
6	○税に関する生徒意識アンケート実施②
7～8	○財政教室の実施（3年生対象：来年度の予算を考えよう） ○税に関する夏休み課題の取組（作文：3年生対象） ○活動報告のまとめ（資料作成）
9～11	○税に関する作文の出品 ○学習発表会での租税に関する発表 ○進路学習（全学年対象：「枕中未来塾」） ○県租税教育研究会での発表
1～2	○研究のまとめと次年度以降の取組について検討

Ⅲ 研究の実際

1 租税教室

(1) 令和4年度租税教室 (7月15日(金) 5校時)

令和4年度の租税教室は、枕崎市市役所の税務課から2名の講師を招いて市民会館の大ホールで全学年の生徒(1年生:62人, 2年生:79人, 3年生:62人)を対象に、引率の教員・支援員(18人)も含め一斉に行った。

ア ねらい

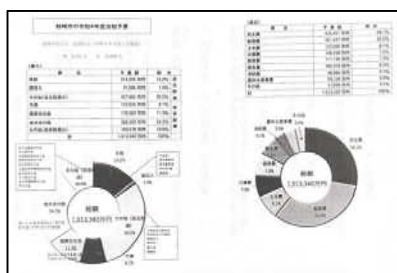
税に関心を持ち、生活の中で税の意義や役割について正しく理解する。

イ 内容

まず、中学生用租税教育教材である令和4年度版「わたしたちの生活と税」を用いて身の回りにどれだけの種類の税が関わっているかについて説明を受けた。次に、DVD「アナザーワールド」の視聴後、生活する地域社会における租税の意義や役割について説明があり、納税の大切さや所得税・住民税と消費税の徴収の仕方の違いなどについて学んだ。最後に、税の歴史などをクイズ形式で関心を持たせながら枕崎市の歳入と歳出の現状や使い道について学んだ。



【中学生用租税教育教材】



【枕崎市の令和4年度当初予算】

税金クイズ	
租税教室(枕崎中学校)	
令和4年7月15日(金)	
第1問 国の収入(一般会計)は、どれくらいでしょうか？ (令和4年度当初予算)	
① 約7兆円 ② 約17兆円 ③ 約107兆円	
第2問 国の収入のなかで、借金である「公債金」の占める割合はどれくらいでしょうか？(令和4年度当初予算)	
① 約14% ② 約24% ③ 約34%	
第3問 日本の消費税が実施されたのはいつからでしょうか？	
① 昭和55年 ② 平成元年 ③ 平成9年	
第4問 中学生(公立学校)1人当たりの国や県や市町村の年間教育費の負担額はどれくらいですか？(令和元年度)	
① 約49万円 ② 約79万円 ③ 約109万円	
第5問 日本にあった変わった税金はどれでしょうか？	
① 空気税 ② 大税 ③ かえる税	
第6問 枕崎市の令和4年度当初予算の収入は、どれくらいでしょうか？	
① 約1億円 ② 約15億円 ③ 151億円	

【税金に関するクイズの様式】



【1 億円のレプリカ】



【講師からの説明】



【市民会館大ホールでの講演】



【資料の説明を受ける様子】



【クイズに答える様子】

ウ 生徒の感想

- ・ 税金の種類が 50 種類あることにビックリ。税金にどう向き合うか考えていきたい。
- ・ 江戸時代に犬税があったことを初めて知った。
- ・ 税金がないといままでのように学校の授業などを受けることができないし、税を払わないと、自分でお金を払って救急車や消防車を呼ばないといけなくなるので、税金を払うことは大事なんだと思った。
- ・ 税金がないと年金がもらえず、道路の整備もできないことを初めて知った。税は一般の生活にも大事なことなんだと思った。
- ・ 大人になるにつれていろんな税が増えるがきちんと払おうと思った。
- ・ 教育費が小中高で差があることに気付いた。国のために納めたい。
- ・ 税を払うことに決めました。外国から日本はキレイだねと褒めてもらいたいです。
- ・ 日本は別の国の消費税を比べると、低い方なのかなと考えました。
- ・ 日本の借金を早く返して、若者が何十年か後に払うお金を減らした方がいいと思った。
- ・ 税の使い道が分かりました。大人になったら税金を払わないといけない理由に気付いた。今日のことを親に話していこうと思いました。
- ・ 税金を使って日本がより良い社会に進んでほしいです。
- ・ 税のおかげで私たちの生活が安心して過ごせることが分かった。今までは消費税は嫌だなと思っていたけど社会に役立っているから自信を持って払おうと思う。
- ・ 税のあり方を知った。公債金はどこから来ているのか。公債金は返されているのか、いつ返さなければいけないのかと疑問を持った。より良い社会のために税金のことについて理解していきたい。

- ・ 税がなければ社会が安定せず、町も汚くなり、国民が暮らしにくくなるので、一人一人が税を負担して生活しやすくなっている現在の社会はすごいと思った。
- ・ 税は私達と意外にも深く関わっていることを知ってビックリした。これからは税のことについて家族と確認しあおうと思った。
- ・ 税金のせいで余分にお金を取られているという思考から自分たちで払った税金が自分や人のためになっているという考えに変わった。
- ・ 税金はいろんなところに使われていてとてもいい制度だなと思った。脱税しないように大人になってからも払っていききたい。
- ・ 税金はすごく必要で、知らない間に私達の暮らしを豊かにしてくれるものだ実感した。今まであまり税について考えたことはなかったが、今日の授業を通してよく分かった。もっと家族や友達と税について話してみようと思う。
- ・ 税を納めることによって日本、自分たちの住んでいる枕崎がここまでいいんだと思った。

エ 考察

1年生の感想で1番多かったのは、「税が大切なものであることに気付いた」というものである。税の徴収が、消防車や警察官を呼んだり、道路整備やゴミの回収だったりに使われ、自分たちの生活や環境を整えるのに役立っていることなどに言及している。また、税の種類之多さに驚く生徒や犬税等の初めて聞く税に関心を示したり、これからの日本社会の在り方について考えたり、納税者である親に話したいという生徒も見られた。

2・3年生の感想では、税金が国や市によって使われる役割の違いや、税の負担を誰が担うかに言及した生徒もいた。実際に支払っている消費税が、自分たちが安心して過ごせるような社会に役立つものとして、自信を持って払いたいという生徒もいた。

そこで、税によって国民を豊かにしたり、生活を助けてくれたりすると捉えている生徒に対して、税に関して肯定的に考えていく時間の設定や活動が必要だと考えられる。

(2) 令和5年度租税教室（5月12日（金）5校時）

令和5年度の租税教室は、知覧税務署から職員を講師に招いて本校の体育館で1年生57人を対象に行った。

ア ねらい

税に関心をもち、生活の中で税の意義や役割について正しく理解する。

イ 内容

前年度に掲げた「生活に関わる税」をテーマにして、中学生用租税教育教材の令和5年度版「わたしたちの生活と税」とDVD「アナザーワールド」を活用しながら、税の種類や財政の状況について講話をしていただいた。

その後のクイズ形式による振り返りでは、項目の1つである、中学生1人につき年間教育費の負担額が、昨年度（令和元年度の文部科学省調べ）は約109万円だったのが、令和5年度版（令和2年度の文部科学省調べ）では約112万2千円に歳出が増えていることの説明があり、現実の変化にも触れることで、より身近な生活に関わる税についての興味・関心を高められるように内容を工夫していただいた。



【講義を受ける様子】



【冊子教材の説明を聞く様子】



【DVD視聴の様子】



【クイズに答える様子】



【一億円のレプリカを持つ様子】



【講演後の様子】

ウ 生徒の感想

- ・ 初めは「税金ない方が楽でしょ」と思っていました。ですが、動画で「税金のない暮らし」を見て、町が崩れるなどの災害や子どもから年寄りまで働かないとお金ももらえない状況を知って、税金が「ある」「ない」で全然違うことが分かりました。私は、これからもずっと税金を大切にしていきたいと思いました。
- ・ 税は私たちの暮らしに役立つもので、無くなってしまうと生活に不便が出てくることが分かった。将来はきちんと税を納めて自分が納めた税で誰かが救われたりすればいいなと思った。
- ・ 税金がないと、災害や事件などが起きた時に、大金が必要ということを知って、税金は大事と分かった。あと、学校に行けているのは、税金のおかげだから感謝したい。
- ・ 税金を納めることは日本のみんなで協力、助け合いをしているなと思いました。私は、消費税しか税金の種類はくわしく知らないけど、分かっていけたらいいなと思います。
- ・ 「国民全員が払っているお金」という大切なものなので、これから、無駄をせずに使ったり、生活していきたいです。税がなくなってしまうと、生活や生きていくことさえも、大変になってしまうということを改めて、考えさせられました。1人1人の協力が国を支えていけることにとても感心しました。

エ 考察

会場の都合もあり、今回は1年生だけの開催となったが、税が身近な生活と関わりがあること、そして、その税金を使って自分だけでなく、同じ地域で暮らす人たちや日本という国の国民レベルにまで想いを広げて考えたり、自分が納める税金が将来の誰かのために使われたりすることに想像が及ぶ生徒の感想があった。また、単なる人の集まりではなく、自分を価値ある存在として税を生かそうとする社会のイメージができていたと感じた。このことは、自分の納税という行為が、税を介して他の誰かを支えていることを認識していると考えられる。昨年よりも人数は少なくなったが、日頃から自分たちが創る社会について話し合ったり、生徒会の活動などに主体的に取り組んだりしている成果ではないかと思われる。

2 財政教室

(1) 令和4年度財政教室 (10月25日(金) 5・6校時)

令和4年度の財政教室は、九州財務局鹿児島財務事務所と知覧税務署から職員を講師に招いて本校の体育館で3年生(62人)を対象に行った。

ア ねらい

日本の財政の現状を理解するとともに、私たちの生活の中で税がどのように使われているかを理解させる。また、財政について話し合う活動を通して、納税者として主体的に社会や国のあり方を考えさせる。

イ 内容

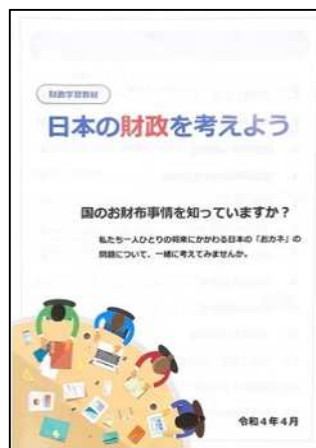
はじめに、九州財務局鹿児島財務事務所職員から、財政学習教材「日本の財政を考えよう」を基にプレゼンテーションソフトを使用して、国の歳入や歳出など財政の仕組みや現在の財政状況など財政に関する詳しい説明を受けた。



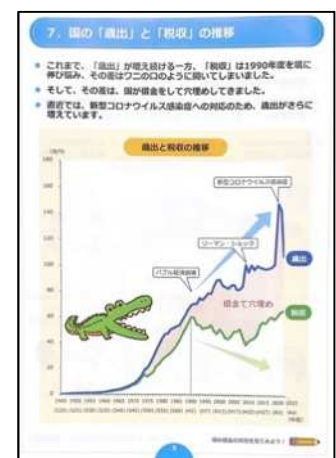
【講師による説明の様子】



【講師の説明を受ける様子】



【財政学習教材『日本の財政を考えよう』】



説明を受けた後は、12の班に分かれて、グループワークを実施した。グループワークでは、タブレットを用いたシミュレーション学習で、自らが財務大臣になり、グループのみんなで国の予算を作成し、発表を行った。各班は、自分たちで「将来こんな国になったらいいな」というテーマを設定し、タブレット内のソフトを用いてテーマに沿うよう予算について話し合いをした。また、ワークシートには、自分たちの班の予算案の中で「なぜ、そのように考えたのか」理由を書き込むことで、自分たちの班の予算を説明するときに、他の班の人たちに納得してもらうための根拠として示せるようにした。

予算案の作成については、歳出・歳入のどちらも編集を行うことができ、歳出は「社会保障（年金・医療・介護・子ども子育て・生活保護ほか）」、「地方への交付金」、「公共事業」、「防衛」、「教育」、「その他」、「借金返済」のそれぞれの項目で予算の増減を考えた。また、歳入は「所得税」、「消費税」、「法人税」、「その他の税収（ガソリン・酒・たばこなど）」のそれぞれの項目で予算の増減を考えた。12の班のそれぞれの予算案のテーマは、以下のとおりである。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1班：高齢者に厳しい社会 | 2班：安心して教育を受けられる社会 |
| 3班：環境に対する取り組み | 4班：子ども子育てを大切にする社会 |
| 5班：高齢者に優しい社会 | 6班：子どもに優しい社会 |
| 7班：子ども子育てに優しい社会 | 8班：子どもに優しい社会 |
| 9班：災害に強い国 | 10班：教育に優しい社会 |
| 11班：子育てに優しい社会 | 12班：子どもを増やしやすい社会 |

4つの班が自分たちで作成した予算案について発表した。生徒たちは自分の考えた予算案とどこが違うのか他の班の意見を参考にし、税への関心を高めることができた。また、発表した班の予算案については、それぞれの班に対して講師からテーマに沿った説明や根拠となる理由に関する大切な視点や関心した点などを講評していただいた。



【予算案を話し合う様子】



【タブレット活用】



【発表の様子】



【講評を聞く様子】

グループワークシート【財務大臣になって予算を作ろう！】

9 班

1. 予算案のテーマを決めよう。(例)“高齢者に優しい社会”、“教育の充実” など

災害に強い国

2. グループで理想の予算を考えよう。グループで話し合った内容(増減した理由など)をシートに書き込みながら進めてください。

歳出予算

①社会保障 合計 ※タブレットの結果をメモしよう	②地方への交付金
年金 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 少しあいてほしいから 医療 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 高齢化の進行に伴って負担が増えるから 介護 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 少しあいてほしいから 子ども・子育て ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 母子家庭とかが多いから 生活保護 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 年金が足りないから	理由: 都市部と地方の格差を減らすため ③公共事業 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 耐震に強い建物をつくるため ④防衛 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 災害に強くなるため ⑤教育 ☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 教科書とかが有料になるから

⑥その他
(a)科学技術研究 ☐増額 ☒現状維持 ☐減額 理由: 防災技術の向上のため (b)食料安定供給 ☐増額 ☒現状維持 ☐減額 理由: 食料の自給率を上げるため (c)エネルギー対策 ☐増額 ☒現状維持 ☐減額 理由: 地球温暖化対策のため (d)国際協力 ☐増額 ☒現状維持 ☐減額 理由: 安全保障の観点から

歳入予算

①所得税	②消費税	③法人税	④その他の税収(ガソリン・酒・たばこなど)
☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 上げたら自分たちの収入が上がるから	☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 上げたら家の値段が上がるから	☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: 法人税の収入が上がるから	☐増額()% ☒現状維持 ☐減額()% 理由: たばこや酒の収入を減らすから

【ワークシート】

財務大臣になって予算を作ろう！

9 班

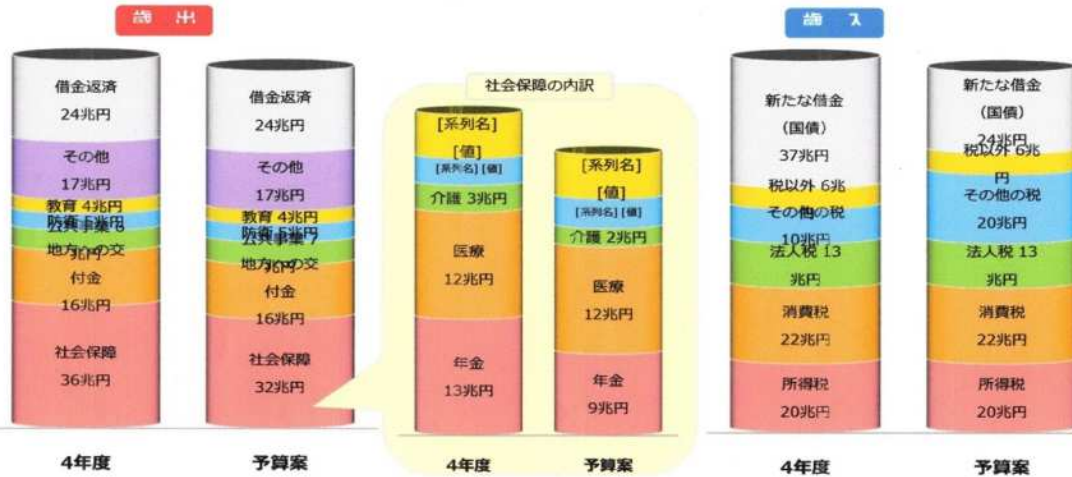
9 班												
歳 出	内 訳						地方への 交付金	公共事業	防 衛	教 育	そ の 他	借入金返済
	年 金	医 療	介護	子ども・子育て	生活保護ほか							
社会保障	11%減	30%減	現状維持	30%減	10%増	現状維持	現状維持	10%増	5%増	現状維持	現状維持	現状維持

歳入	所得税	消費税	法人税	その他の税	税以外
現状維持	現状維持	現状維持	100%増	現状維持	現状維持

予算総額	
4年度	108兆円
予算案	105兆円

予算案では借金の総額が現状維持となります

※変更前の予算では、借金の総額は13兆円増えます



【タブレットで制作した予算案】

ウ 生徒の感想

- ・ これまで財政についてあまり考えたことがなかったけど、この授業を通して考えてみると、意外と面白くて本気で悩みました。これからも財政についていろいろ考え、調べていきたいと思いました。
- ・ 日本は歳入よりも歳出の方が多いので、多額の借金があるということに驚きました。私たちが高齢になる頃に年金があるか分からないので、若いうちに頑張ろうと思いました。
- ・ 身の回りの様々な場所で国が支出しているところが多いことを知った。高齢化が進んでいたりして大変だけど、暮らしやすい社会になってほしいと思った。
- ・ 国の借金や少子高齢化に伴う社会保障の増額など、国の財政の問題がこんなにも多いことが分かりました。これから社会を担う一員として身近に感じて生きていこうと思いました。
- ・ 自分で考えることができて良かった。他の人たちの意見も聞くことができて良かった。今日習ったことをもっと自分で考えていきたいと思った。
- ・ 今まであまり財政とか考えたことがなくて、でもこの授業を通して、国の将来に関わる重要なことなんだなと思った。大人になったらちゃんとこのことを考えて、選挙とかしようと思った。

エ 考察

生徒たちは、租税教室で学習した内容を思い出しながら、国がどのようにしてお金を集め、どのように使っているのかなどを再確認する様子がうかがえた。予算案の発表では、限られた班の発表ではあったが、自分たちが考えていた意見と違う意見を聞いたことで、多様な視点から財政について学べたと考えられる。

授業の振り返りで行った、生徒たちが勉強になったところを1つ選ぶ項目をみると、「日本の財政」が1番多かった。次に多かった項目の「グループワークを通じた意見交換」を選んだ生徒たちは、『たくさんの歳入があるのに、国としてまだ借金がある状態なので、それを返済するためにどうすればよいか考えることができた』ことを理由に挙げていて、財政の問題点から歳出と歳入の内訳を話し合っていることがわかった。また、「公共サービスについて」を選んだ生徒が、『公共サービスが思ったより多く、それに多額のお金がかかっている』ことを挙げていて、税の負担に対してサービスという受容に関する歳出の仕方に注目している。この点に関して、今後の活動の1つに、教育、医療、介護、子育て、環境、多くの人々が共通して抱えているニーズや不安に光を充てて、それらのための給付の仕方について現金給付と現物給付の視点で調べさせたいと考える。

(2) 令和5年度財政教室 (7月7日(金) 3・4校時)

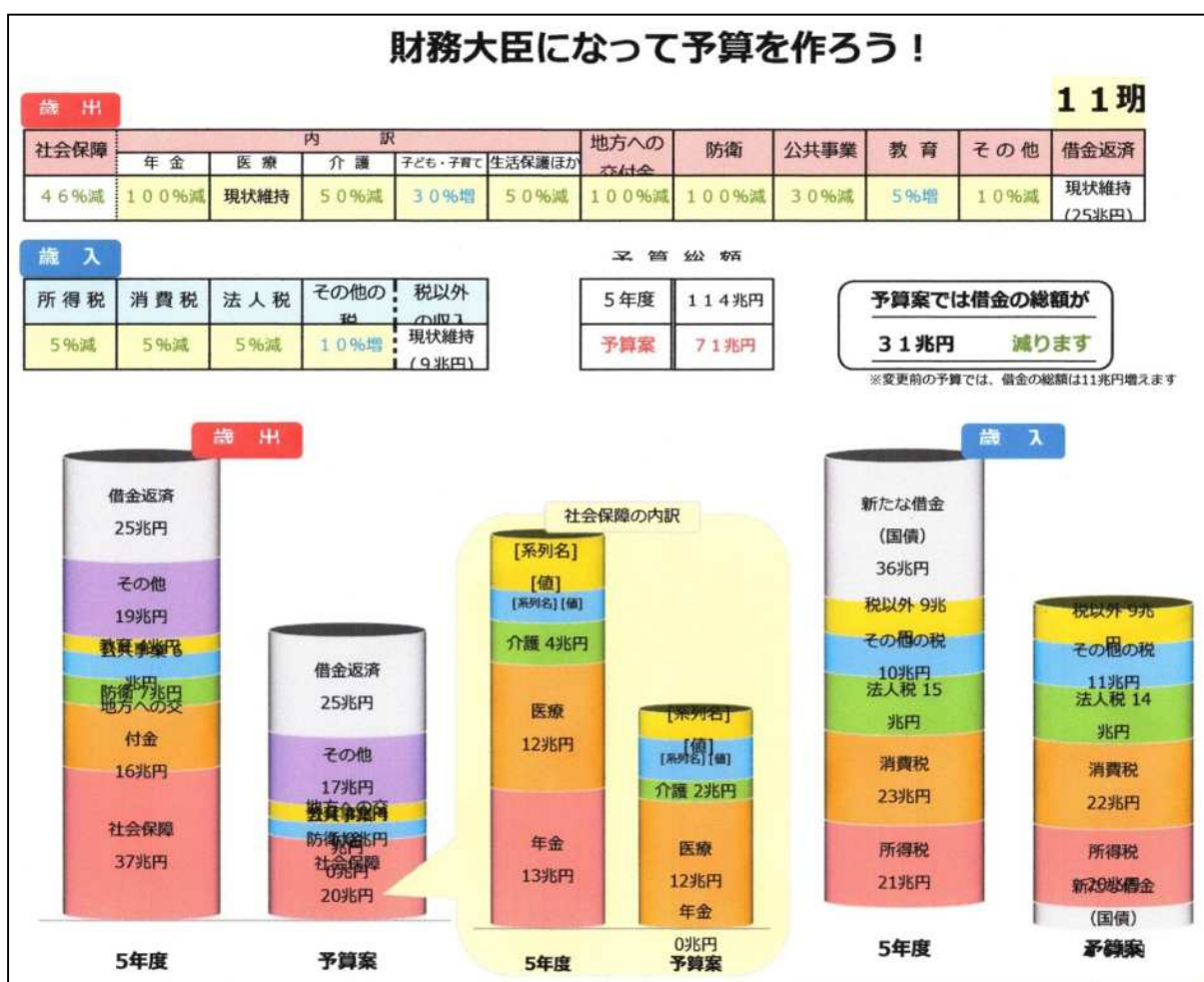
令和5年度の財政教室は、昨年度同様、九州財務局鹿児島財務事務所と知覧税務署から職員を講師に招いて本校の体育館で3年生(79人)を対象に行った。ねらいと内容についても、昨年度と同様である。



ア 生徒の感想

- どんなことをテーマにするかで税の使い方や見方が大きく変わってしまうことに気付いた。
- 日本ってこんなに借金をしてるんだととても驚きました。「やばいじゃん！」って思ったけど、いざ自分が財務大臣になってみると、とても難しかったです。どれも減らせないってなりました。今まで、税のことなんて何にも考えていなかったもので、良い機会になりました。
- 税が日本の国民からたくさん集められているのに、借金の返済などで、お金が足りないことを初めて知ってすごく驚いた。グループワークで、私の意見とは真逆の意見の友だちがいて、税に対する考え方は人それぞれだなと思った。将来は私たちが、借金の返済をしないといけないから、ちゃんと考えていこうと思った。
- 日本は世界の国々と比べたら、安全だし綺麗だけど、それを保つためには何十兆円ものお金がかかることに改めて気付きました。税の使い方について考えることがこんなにも難しいとは思いませんでした。
- 僕は今日の財政教室で、最初、税は主に警察など、国の安全目的で使っていると思っていました。ですが今日の授業で、税は介護か子育て支援など生活を助けてくれたり、公共事業などの身の回りの生活環境を整えてくれる働きがあることを知りました。僕は、今日の財政教室で、税に多様な使い道があることを知りました。そして僕が税に対して間違った考えを持っていたことが知れて、改めて税のことを分かっていないことを実感しました。

- ・ 「消費税」以外の税について初めて知ることができました。そして日本が多額の借金をしていることも知りました。もう少しで私たちにも選挙権があたえられるのでよく考えて国民の代表を選べるようになりたいです。
- ・ 税を納めることは、大切だと思うし、税を納めることで助かる例もあると思うので自分も支援できるようにしたいです。今の日本では、他のことにも税を使うのが大切だと思いました。
- ・ 日本はもっと税の使い方を考えた方が良くと思う。ウクライナや他国へ資金をあげているけど、所得税や消費税を払って大変な保護者たちの方を優先すべきだと思う。
- ・ 最初は、みんなのお金を取るだけで、別に何もしないでしょ・・・と思ったけど、国のためや自然のため、学校につながることでと分かって、税はとっても必要だなと思いました。
- ・ 今日の財政教室で、実際に、タブレットを使って税の増減を考えてみて、もっとニュースや新聞などで国のことについて知ってみたいくなりました。税で、国を支えていると改めて感じました。



【タブレットで制作した予算案】

イ 考察

昨年度に続いて2回目の開催である。対象の3年生は異なる生徒たちなので気付かない点だが、タブレットのシミュレーション学習に設定されている、既定の予算総額の項目が昨年度（108兆円）から5年度（114兆円）と増額されていて、それに伴う借金返済の割合は現状維持でも1兆円分を減額し、新たな借金（国債）の割合が1兆円分減額されているなど、財政状況の変化がしっかり反映している教材で体験学習を実施していただいていることに感謝したい。



【借金増加と社会保障費の関係】

また、歳出の内訳で社会保障費はさらに細分化して考えることができ、発表の際にはここに重点化した別のグラフで視覚化できるようになっている。社会保障費の増大については講義の説明でも触れられていて、少子高齢社会の今後を見据えた話し合いが多く見られた。

昨年度制作した予算案にはなかったのが、前項で示した11班の予算案である。特徴は、予算総額の大幅な減額（43兆円分）と借金総額の減額（31兆円）である。これまでは、借金の大きさに驚くばかりの生徒たちであった。そして、昨年度と同じ割合の額を借金返済に充てたとしても、歳出の相当な額を減らさない限り、借金の総額は減らなかった。11班は、そこに注目し、歳出額を相当額減らしたのである。

テーマが「借金に頼らない社会」で、新たな借金（国債）をしないで次の世代のために税金を使っていく考えであった。そのため、歳出では社会保障費の「子ども・子育て」の項目で30%増額、「教育」の項目で5%増額し、「年金」・「地方への交付」・「防衛」の項目で100%減額するというように、実際に実行するのには難しいものの、テーマに沿った増額を行っていた。歳入においても新たな借金となる国債は発行しないことでこれ以上借金を増やさないようにしている。また、「その他の税」（健康を害する恐れのあるタバコ税）を10%増額し、1兆円の税収入増額と健康を害する恐れのあるタバコの購入に躊躇させたり、健康を害して医療機関にかかる割合を減らして医療費を増やさないために使う費用に充てたりするなど様々な視点で予算案を作成していた。

結果として、自分たちの実現したいテーマに沿って予算案を作成することの難しさを知ることができたと考える。さらに今後の活動の1つとして、租税や財政を通じて社会を構成する全ての人々にとって安心して暮らせる財政や租税のあり方を考えていきたい。

3 社会科での取組

(1) 税に関する授業

租税教育と関連のある内容・題材について年間指導計画の中から抽出し、整理した。

【表：社会科における租税教育の位置付け】※頁は教育出版の教科書のページ

	時間	題材名	目 標
歴史的分野	1年 2学期	木簡と計帳は語る [P 44～45]	○律令制度の下で、人々はどのような生活をしていたのかを理解する。 ○班田収授法や租・調・庸などについて学び、その意義や負担の重さについて理解を深める。
	2年 1学期	身分ごとに異なる暮らし [P 124～125]	○江戸幕府はどのようにして人々を支配したのかを理解する。 ○それぞれの身分でどのような税の負担があったのかを知り、その意義や負担の重さについて理解を深める。
	2年 3学期	学問は身を立てるの財本 [P 170～171]	○明治維新の三大改革は、人々の生活にどのような影響を与えたかを理解する。 ○地租改正により近代的な税制ができたことの意義や人々の反応について理解を深める。
公民的分野	3年 2学期	自由と権利を守るために [P 64～65]	○基本的人権を守るために、わたしたちはどんな努力が必要か、具体的な事例を通して理解する。 ○国民の三大義務について理解させるとともに、納税が国民の義務である理由について気付かせる。
	3年 2学期	暮らしと関わる行政 [P 156～157]	○租税をもとに政治を行う行政の役割について理解する。 ○行政改革が進められた理由について理解を深める。
	3年 2学期	地域の暮らしを支えるために [P 118～119]	○地方公共団体の仕事と財源の現状について理解させ、租税の重要性に気付かせる。
	3年 2学期	財政が果たす三つの役割 [P 156～157]	○財政が果たす三つの役割について理解する。 ○身近な例を通して、社会資本の整備や公共サービスの供給を国や地方公共団体が行っていることに気付き、政府が果たしている経済的な役割を考える。
	3年 2学期	税金を納めること [P 158～159]	○税について関心を持ち、様々な税があることを理解する。税の種類について理解する。 ○租税の効率性と公平性という働きについて理解する。

3 年 2 学期	税金の行方と国の借金 [P 160～161]	○歳入，歳出における内容を具体的に確認し，国と地方の財政の重要性を理解する。 ○税金だけではお金が足りず，国や地方公共団が多額の借金をしていることを理解する。
3 年 2 学期	身のまわりの社会保障制度 [P 170～171] 助け合う社会 [P 172～173]	○社会の中でお互いに助け合う仕組みは，なぜ必要か考える。 ○日本の社会保障の仕組みを理解する。 ○社会保障の中でも，公的扶助，社会福祉，公衆衛生は国民に健康で安全な生活を送る権利を保障するため，税金で運営されていることを理解する。
3 年 2 学期	社会保障の維持のために [P 174～175]	○超高齢・人口減少社会がわが国の財政に大きな影響を与えていることを学ぶ中で，税の負担や社会保障のあり方について考える。
3 年 2 学期	暮らしやすいまちづくりへ [P 176～177]	○身近な例を通して，社会資本の整備を国や地方公共団が行っていることに気付き，政府が果たしている経済的な役割を考える。 ○誰もが暮らしやすい豊かな社会をつくるために，私たちにできることを考える。

3 年公民的分野の単元「地方自治と住民参加」の授業では，地方財政の特色や課題について枕崎市の広報誌『枕崎 12 月号』を使って読み取る作業を行い，その後に『市議会だより（鹿児島市）』と『市議会だより（枕崎市）』を比較することで，地方公共団体全体の課題が全国的な傾向と一致する点に気付かせたい。



【広報誌『枕崎 12 月号』表紙と該当ページ】

【市議会だより（鹿児島市と枕崎市）】

(2) 税に関する作文

夏休み課題として「税に関する作文」の募集を，令和 4 年度は全学年を対象に選択制で行った。令和 4 年度は全学年を対象に租税教室を実施したが，令和 5 年度は 1 年生で租税教室，3 年生で財政教室を行った。その経験を通して，税に関する興味関心が高まり，自分なりの考えを述べる生徒が増えたと考えられる。その結果，令和 5 年度は昨年

度と比べて、「税に関する作文」に取り組む生徒が多くなっており、生徒の成長が感じられる取り組みとなった。下の作文は、令和5年度の生徒の作文である。

これからの未来で生きていくために

枕崎市立枕崎中学校3年

「少子高齢社会」「人口減少」これは我が国・日本が抱えている大きな問題です。僕もこの問題を実際に感じています。僕の住んでいる鹿児島県枕崎市の端にある駒水地域では、数年前までは地域の運動会や様々なお祭りなどが行われていましたが、ここ最近は行われていません。コロナの影響もありますが、高齢者の割合が増え、人口が減ったことが大きな原因です。数年前までは運動会などで地域の人たちと楽しく交流でき、活気がありました。

おじさんたちに遊んでもらったり、声をかけられたりして成長を見守ってもらっていました。でも、今はそんな機会がほとんどないので寂しいです。僕が生まれてからの十五年でこれだけの変化があります。

もう少し広く見ると、人口減少により地域経済が停滞していることがあります。住民が減ると、消費や税収入も減り、地域のお店や工場などの経営にも影響を与えます。また、高齢化により医療や介護の費用が増加することも考えられます。子育て支援が少なくなったり、行事の縮小などにより住みやすさがなくなったりしてしまい、ますます人がいなくなってしまうということが起きてしまっています。

そして、税収入が減ってしまうとさまざまなサービスができなくなってしまうます。具体的には、道路や公園の整備が滞り、清掃作業が減ってしまうかもしれません。また、僕たちのような学生にも影響が出てくるかもしれません。どういうことかと言うと、教育への予算が削減されることにより、学校の整備や先生の環境が整わなくなって今までどおりの学校生活が送れなくなってしまう恐れがあるからです。

このように、少子高齢化や人口減少などの問題は税にも多くの影響を与えています。このままこのような問題が加速していくと人口が減り、税収入が減り、サービスができなくなりもっと人口が少なくなっていくという負のループがどんどん進んでいってしまいます。

しかし、僕たちはこのような社会で生きていかななくてはなりません。この問題はすでに政治の人たちも多く取り組んでいるのに、解決の道が見えないでいます。僕たちが、直接的に何か対策するのは難しいでしょう。ですが、声をあげることはできます。ニュースや新聞で今何が起きているかを知り、自分なりに考え発言することで政治に参加することができます。例えば、少子高齢化を止めるために子育て支援を増やしてほしいと発言すれば、自治体なども動くことができると思います。誰も何も言わなかったら何も変わりません。

みんなが自分の地域を、国を、自分たちで守ろうとする意識を持つことが大切だと思います。みんなの声が社会を動かす渦となり、1人1人が尊重される社会になるといいです。

4 道徳科における取組

租税教育と関連のある道徳科の内容項目として4つの中から「集団や社会との関わりを見つめるキーワード」を1つ選び、各学年で「社会参画，公共の精神」・「遵法精神，公德心」に関する題材を年間指導計画の中から抽出した。

【表：道徳科における社会参画に関する教育と法教育の例】※光村出版の教科書

時期	題材名	ねらい
1年7月	紙芝居	ボランティアで紙芝居を上演することになった生徒たちの物語を通して、社会に積極的に関わっていくことの大切さについて考えさせ、社会的な役割を果たし、自ら協力していこうとする実践意欲と態度を育てる。
1年3月	雨の日の昇降口	急な雨の際、他人の傘を無断で借用してよいかどうかで迷う生徒の物語を通して、きまりを守ることの大切さや公德心について考えさせ、住みよい社会にするために、公德心をもって生活しようとする実践意欲と態度を育てる。
2年4月	消防団	消防団に参加することで地域社会に貢献している巻出さんの姿を通して、地域のために活動することについて考えさせ、自分の地域や社会に積極的に関わっていこうとする心情を育てる。
2年10月	民主主義と多数決の近くて遠い関係	「好きな案」・「みんなにとって望ましい案」をどう捉えるかについての説明文を通して、集団や社会の中で合意形成するとき、大切にすべきことについて考えさせ、法を遵法し、公德を重んじようとする判断力を育てる。
3年9月	一票を投じることの意味	選挙に関心をもち始めた生徒を描いた物語と、選挙の意味について書かれた説明文を通して、よりよい社会を実現するために大切なことについて考えさせ、社会や公共の問題に目を向け、参画していくための判断力を育てる。



【池上さんの文章を図式化したもの】



【題材『一票を投じることの意味』】

租税教育との関連として3年の「一票を投じることの意味」では、選挙の意義についての説明文でジャーナリストの池上彰さんの文章『選挙は「税金を使う人」を選ぶ』を資料として取り上げている。授業の実際には、次の3つをポイントにしたい。

- (1) 税の使いみちや集め方は、国民が選挙により選んだ代表者が国会で決めていることを理解させる。
- (2) 主権者である国民が社会や政治、税のあり方や使いみちなどに関心を持ち、代表者の選出（選挙）を通してその議論に参加するなど、自ら社会や政治に参画する意識を持つことの大切さを理解させる。
- (3) 自らの代表が国の歳出のあり方を決めることと自らが国を支える税を負担しなければならないことは、表裏一体であることを理解させる。

5 総合的な学習の時間における取組

税に関して租税教室や財政教室など専門家や地域で活躍している方を講師に招き、話を聞く活動を通して、社会の一員としての自覚を高め、主体的に取り組むための活動である。

(1) 食育支援事業（地場産業学習：令和5年5月28日実施）

ア 事業のねらい

この事業は、南薩地域食育支援体制推進事業の一環として枕崎水産加工業協同組合が実施しており、枕崎の水産加工業や特産である鰹節について理解を深めること、地場産業をはじめとする産業や風土について考え、故郷愛を育む機会とすることなどが、ねらいである。

イ 活動の内容

実際の活動は、3年生79名を2クラスに分けて、活動を交互に行った。1組は鰹節の製造についての歴史や地理的環境の特異性などを資料やビデオを見ながら講義を受け、2組は鰹節を実際に削っている作業を見学し、鰹節や原材料等を保存する保冷库内部や鰹節を削る体験を行った。



【講義受ける様子】



【鰹節の形を整える作業】



【鰹節を削る様子】



【削る歯車を見学する様子】



【保冷库内の様子】

ウ 生徒の感想（『生活の記録』から抜粋）

- ・ 僕のおじいちゃんの家にもまた鰹節を削りに行きたい。おいしい鰹節と一緒に削りたいです。
- ・ 私は、水産加工業協同組合に行って、驚いたことは、鰹節の形を整える職人さんが1つ1つ手作業で行っていることです。改めて鰹節を作るのは、大変なんだと感じました。
- ・ 鰹のさばき方や鰹節になるまでの工程を知れて、新鮮な体験になりました。
- ・ 枕崎に住んでいるので、鰹のことはほとんど知っていると思っていたけど、意外と知らないことも多くて勉強になりました。鰹節も削れて楽しかったです。
- ・ 鰹や薪についてのビデオを見ました。枕崎で生まれてよかったです。
- ・ 鰹節を食べました。とてもおいしかったです。5℃の冷凍庫に入りました。良い体験ができました。地元の良さを楽しむことができ、様々なことを学びました。
- ・ 鰹の日本生産量7割が鹿児島県ということに改めて驚きました。これからも味わって食べていきたいです。

エ 考察と税との関連

生徒の感想からは、鰹節削り体験で家族のつながりを感じたことや地元産業の歴史や水産加工業について知識を学ぶ機会となり、地元・ふるさとの良さに気付く活動であったことがわかる。また、講義で使われた資料やビデオ視聴を通じて、郷土である枕崎の地形や豊富な水に恵まれていることなど自然環境を生かした先人たちの取り組みについて見直す学びとなった。

そして、この学びが地域の森林を守る税へとつながったのである。なぜなら、郷土の特色ある地場産業が自然環境を活かした産業として、この鰹節製造という水産加工業を支える森林に注目し、今どんな取り組みがされているのかに興味をもった生徒が、森林環境税という存在に気付いたからである。

さらに、この森林環境税などの調べてみたいことを租税に関する学習の紹介として学習発表会場で発表することになった。

(2) 枕中未来塾（令和4年11月12日実施：土曜授業「進路講演会」）

校区内にある事業所や地域に住む企業人が「働く大人」として自らの経験を語り社会で働くことについて、全学年の生徒を対象に考えさせる取り組みである。また、時代を担う生徒たちを社会全体で育成するという観点で、学校からの講演依頼に協力していただいている。講師の話は生徒たちだけでなく、教員や保護者にとっても、実社会に触れる絶好の機会になっている。



【11人の講師】

ア 活動の目標

- ・ 自分や他者の長所や個性がわかり，チームを組んでお互いに支えながら仕事をしていることを学ぶ。
- ・ 産業や経済の変化に伴う職業や仕事の変化を知り，講話等を通じて勤労の意義や働く人の思いを理解する。
- ・ 将来の夢や職業を描き，自分の目ざすべき将来を暫定的に計画する。



【講師の話聞く生徒の様子】

イ 生徒の感想（特に，社会を支え，つくる視点の内容について抜粋）

- ・ 自衛隊は災害の時も，被災者に寄り添って生活保護や救助など大変ではあるが，カッコイイ仕事だなと思いました。
- ・ 建築業のイメージとしては，家とかビルを造っているイメージでしたが，実は，土木工事で地面の下に家を支える基礎や地面の整備をしていることを知り，その大切さも知りました。隠れて町を支えている土木工事をしている人たちって，とてもカッコイイと思いました。
- ・ なくなってしまうたらいけない仕事で，なくなってしまうと道路がでこぼこになったり，家が壊れたりして人の命に関わっているということがわかりました。
- ・ トラックが生活をいかに支えているかなど，よく経済を回すために必要だということを知ることができました。
- ・ 質問で，給料の話で，あげる側ともらう側が WinWin の関係だと思える考え方がいいなと思った。

(3) 職場体験学習（令和5年度5月29日，30日，6月1日実施）

本校では，校区内にある職場での体験を通して，自分の生き方や将来に対して関心をもち，働くことの意義を理解させることを目的に，総合的な学習の一環として，3年生が3日間の職場体験学習を行なっている。また，事前訪問のための電話マナー学習も含めて，社会人として必要なことを学び，今の生活に生かす意欲と態度を育てたいと考えている。（令和5年度に実施した職場体験学習の職場は31の事業所である。）

ア 活動の目標

- ・ 自分の将来の夢や希望について考えるきっかけとする。
- ・ 働く人に接して、仕事に取り組む姿勢を学ぶ。
- ・ 一般社会で通用するマナーを身に付ける。
- ・ 積極的な態度で、学習を有意義なものにする。
- ・ 地域社会の文化に触れ、地域の良さを再認識する。
- ・ 様々な人と接して、自らの生き方について考える。
- ・ 学習をまとめ、みんなの前で発表する。

イ 生徒の感想（特に、社会を支え、つくる視点の内容について抜粋）

- ・ 介護士の仕事はもちろん、お金を1から稼ぐのことの大変さを知ることができました。
- ・ 建設会社は、大変なところもあるけど、みんなと共同作業して町をよりよくしていくというところが、この仕事のよいところだと思います。
- ・ 患者さんに寄り添って楽しくリハビリしている姿がかっこよく、私もリハビリの手伝いをしている時、とても楽しく、やりがいを感じました。コミュニケーション力も必要で、私の憧れです。
- ・ 仕事を終えた後に、お年寄りの方々が、ありがとうと感謝の気持ちを聞いて、やりがいを感じることもできた。
- ・ 私は、市役所の職員さんと一緒にたくさんの漁業や観光施設を巡りました。室内での事務作業だけでなく、室外の広場の草刈りや施設の管理をされていて仕事の幅がとても広いということに驚きました。
- ・ 市民と直接的に関わることは少ないが、必要な物の手入れなど間接的に役立つという仕事が多いこと気づきました。
- ・ これからは、自分には何ができるのかを考え、すぐに実行できるよう日々の生活で意識し、力をつけようと思いました。



【各事業所の職場体験の様子】

ウ 考察（税との関連）

生徒の感想からは、お金を稼ぐことの大変さや仕事にやりがいを感じたことがわかる。実際に働く人たちに触れることは、町をよりよくしていく作業や、市民の生活を安全・安心なものになるよう考え、取り組んでいる現場を知ることでもある。また、職場には、異年齢の人たちと触れ合う機会があり、多角的に地域社会へ貢献する行動の在り方を学んだと思われる。

生徒たちは、「枕中未来塾」や「職場体験学習」を通して、地域社会を構成する多様な人々の存在に改めて気付くことができたと思われる。したがって、その人たちから集めた税金が、どれ程価値があるものであり、その使い方について関心を高めることにつながったと考えられる。

(4) 学習発表会（令和5年11月2日実施予定）

3年生による税に関する発表を行う。5つのグループごとに郷土・枕崎に関する税について課題を決め、調べたことについて提言（プレゼンテーション、展示）する活動である。

< 5つの課題（案） >

- A 未来の枕崎の福祉と税の使いみちについて提言しよう。
 - ・ 設定理由は、高齢者人口の割合が総人口比で40%を超え、市としての福祉や社会のあり方が問われているから。
- B ふるさとの自然環境を守る森林環境税について提言しよう。
 - ・ 設定理由は、住民税に1000円を上乗せする森林環境税で、水産加工業にとっても大切な森林であるから。
- C 「日本を元気にするふるさと納税」について調べてみよう。
 - ・ 設定理由は、地方自治の財源に関する全国のふるさと納税の特色と枕崎市のふるさと納税の寄付額や返礼品などは本当に役に立っているのか知りたいから。
- D 中学生の日常を奪う災害と税の関係について考えよう。
 - ・ 設定理由は、安心・安全のために支払う税は本当に安心かを確かめたいから。
- E 観光客から集める税と枕崎市の税収を増やす方法について考えよう。
 - ・ 設定理由は、自分たちの安心を他地域の人から集める考えに納得できないから。

6 税の書籍コーナー

学校司書の協力を得て、図書室に「税」に関する書籍を集め、「税の学習コーナー」を設けてもらった。

「税に関する作品（作文）」の制作に用いるために読む生徒や学習発表会での調べ学習用の参考文献としても、税に関する資料をグラフやイラストで表現している点で読みやすく工夫されている。



また，図書室から広報誌の「新刊案内」で税に関する書籍の紹介もしていただいている。
租税教室や財政教室で学習した後に，税に興味を持った生徒が学年に関係なく書籍を手にする姿が増えたとの話を聞いている。



IV 研究の成果と課題

1 税に関するアンケートの結果

(1) 税の使い方について興味がありますか？

		大いにある	少しある	あまりない	全くない
R 4	1 年	5 %	71%	18%	6 %
	2 年	10%	62%	28%	0 %
	3 年	11%	65%	24%	0 %
	全体	9 %	65%	24%	2 %
R 5	1 年	15%	73%	12%	0 %
	3 年	9 %	67%	23%	1 %
	全体	11%	70%	19%	0 %

(2) 税を納めることについてどう思いますか？

		必要である	払いたくない	どちらともいえない
R 4	1 年	89%	2 %	9 %
	2 年	94%	2 %	4 %
	3 年	92%	2 %	6 %
	全体	91%	2 %	7 %
R 5	1 年	98%	0 %	2 %
	3 年	90%	3 %	7 %
	全体	94%	2 %	4 %

(3) (2)の理由を書きましょう。

＜必要である＞の理由

- ・ 実際に枕崎中学校も税金を使って学校のトイレの改修をしてもらえたから。
- ・ 私たちが生きていく中でどれほど税金が必要なのかを知ることができたから。
- ・ 税を払ったらお金が少なくなるけど、何か起きたときの保証ができるから。
- ・ 税がないと自己負担するお金は減るが、子どもを持つ人、盗難に遭った人など特定の人だけが負担をしないといけなくなり、それはとても多額になる。だから、国民全員で税という負担をし、それ相応に警察、学校、道路の整備などのサービスを受けられるから。
- ・ 税を払わないと、子どもや老人達が働かないといけなくなるから。
- ・ 自分たちが安全に暮らすために必要なお金だと思うから。
- ・ 税を納めないと、年を取ったら年金をもらえないから。
- ・ 一度に大金を払うよりかは、少しずつお金を払った方がいいから。
- ・ 定価より高くなってしまうのは少し嫌だけど、税を納めることで生活が豊かになり暮らしやすくなるから。

＜払いたくない＞の理由

- ・ 税はお金持ちの穴埋めに使われているから。国会のいいように使われているから。
- ・ 自分たちが頑張って働いてもらったお金を国に分けることは少し嫌だから。
- ・ 必要だと思うが払いたくないから。
- ・ 払わないといけないのは分かっているけど、めんどくさいから。

＜どちらともいえない＞の理由

- ・ 税を納めないと道はめちゃくちゃだけど、消費税などで物を買うときに支払うお金が多くなるのは嫌だから。
- ・ 自分はまだ税の使い方に興味がないので何も言えないから。

(4) 税は生活の中で役に立っていると思いますか？

		大いに	役に立っている	あまり	全く
R 4	1 年	47%	47%	5 %	1 %
	2 年	65%	33%	2 %	0 %
	3 年	72%	28%	0 %	0 %
	全体	61%	36%	2 %	1 %
R 5	1 年	72%	28%	0 %	0 %
	3 年	48%	51%	1 %	0 %
	全体	60%	39%	1 %	0 %

(5) 「今の日本」で、税を何に使ったらよいと考えますか？（3つ以内で回答する）

		災害 復旧	医療や介護等 の社会保障	子育て 支援	景気（経済） をよくする	教育に関 する費用	公共施設 の充実	国民への 給付金	国防 費
R 4	1 年	51%	60%	47%	27%	38%	27%	42%	20%
	2 年	57%	65%	51%	19%	41%	22%	19%	11%
	3 年	63%	61%	37%	37%	29%	29%	20%	14%
	全体	57%	62%	45%	28%	36%	26%	27%	15%
R 5	1 年	52%	47%	32%	18%	31%	23%	10%	10%
	3 年	60%	41%	54%	22%	37%	22%	16%	13%
	全体	56%	44%	43%	20%	34%	23%	13%	12%

(6) 税を使うときに（使い方で）、自分たちが家庭、学校、地域でできることを書こう。

- ・ 学校で使われている物を大切に扱う。電気をこまめに消す。
- ・ 冷房などのつけっぱなしを止める。
- ・ 使わなくなった物はリサイクルをする。
- ・ 必要な物以外は買わない。
- ・ 生活の中でごみを減らすこと。
- ・ 公共の物を大切に使う。国会議員でムダな人には税金を払わない等を考える。
- ・ 税の必要性を、税が要らないという人に税がなくなった世界を教える。
- ・ 税は国民みんなが払っているから、使うときは節約する。
- ・ タブレットの明るさを減らすことで消費電力を節約する。

(7) 税について、家族と話をすることがありますか？

		話をよくする	話をしたことがある	話をしたことがない
R 4	1 年	6 %	38%	56%
	2 年	5 %	44%	51%
	3 年	2 %	35%	63%
	全体	4 %	40%	56%
R 5	3 年	2 %	35%	63%

2 アンケート結果の考察

アンケート結果から、税に関する興味・関心が高まった生徒が多くいたことがわかる。特に、税の使い方に興味を示す生徒の割合が多く、財政教室等で財政について知り、自分で予算案を立てる活動が効果的だったと感じた。また、税を納めることに必要であると答えた生徒の割合が 90% 台と高い。その理由を見ると、「自分にとって」必要というものが多

く、「私たちにとって」必要なことのために税を納めているという視点の意識が低いように感じた。払いたくない理由には、必要な人や困っている人を助けるために税が使われていると考えていないものもある。また、国民の代表として選挙で選ばれた国会議員が国民のために必要な税のあり方を審議していないという認識は、民主主義が機能していないことであり、将来の主権者として正しい情報に基づいて判断するための教育が必要であると思える。

「今の日本」をどう捉えるかも大事な視点であるが、生徒が税を何に使えばよいかを選ぶ項目では意見が分かれていた。各学年、そして2年間で共通して高い割合を示した項目は、「災害復旧」・「医療や介護等の社会保障」・「子育て支援」の3つである。一方、「国民への給付金」は令和4年度と令和5年度の比較で、14%も低下している。これは、公共サービス等の現物給付と給付金のような現金給付に対する生徒たちの認識の違いなのか、さらに調べてみたい結果である。

(7)の項目では、税について家族と話をしたことがない割合が全学年で高い。令和4年度で話をしたことがある割合が約半分と高かった2年生も、令和5年度の3年生のデータでは低下している。家庭で話題となるように学校からの広報活動を考えていきたい。

3 研究の成果

2年間の研究において、本校の特色と成果は以下の5点にまとめることができる。

- (1) 本校では租税教育の取組を新設するのではなく、学校教育活動や総合的な学習の時間等において、すでに実施されてきた体験活動などを租税教育の視点から見直すことで、より深まりのある取り組みに発展させることができた。
- (2) 本校では、さまざまな場面で学年集団や全学年を対象にした活動を行ってきたが、租税教育でもテーマ毎にグループを組織し、生徒たちの協働性や異なる意見から学ぶ多角的視点を意識した活動ができた。
- (3) 教師も税について生徒と共に学ぶという観点から、租税教室や財政教室に学年部の教師も参加することにした。また、租税教育は同じ社会の未来を担うための教育であるとして現在の課題に対して共に学ぶという姿を示すことができた。
- (4) 生徒アンケートからは、生徒の税に対する意義や役割についての認識が大きく変化していることが確認できた。また、財政教室等で税の使いみちと決定のプロセスについて関心を高めることができた。よりよい社会を築くためには、これからも社会の一員としての自覚をもって、主権者としての権利を行使することや学んだことをこれからも積極的に広めていくことが大切であることに気付かせることができた。



【節水と呼び掛けるポスターの掲示】

- (5) 税に関する作文への取り組みや生徒会活動を通して、生徒が身近な生活にある税の役割を認識したり、公共物や資源を大切にしたりする態度を養うことにつなげることができた。

4 今後の課題

課題としては、以下の2点にまとめることができる。

- (1) 租税教育で学んだことを実生活で活かすためにも、家庭との連携は必要である。家庭では、税について課題を共有する機会も少なく、各種通信や校内掲示等で税に関する啓発活動を通じて、生徒・保護者・教職員の税に対する意識を向上させることも重要と思われる。
- (2) 租税教育推進係として道徳科や総合的な時間における領域で租税教育の位置づけを計画してきたが、他の教科でも税に関する授業づくりの視点や研修の時間確保が必要である。

V おわりに

2年間にわたって、租税教育研究委嘱校として研究に取り組んできた。今回の取り組みから、生徒たちは税の役割や重要性について気付き、正しい知識を得ることでさらに考え、自分事として当事者意識をもって税のあり方やよりよい社会を追究する意欲につながったと感じることができた。新たに見えてきた課題を踏まえながら、今後も租税教育の推進に励んでいきたい。

最後に、今回の研究を支え、協力してくださった鹿児島県租税教育推進協議会をはじめ、財務省九州財務局鹿児島財務事務所、知覧税務署、枕崎市役所税務課、その他関係者の方々に心からお礼を申し上げたい。